

すいさんけんきゅう きょういくきこう ニュースレター
水産研究・教育機構 NEWS LETTER



おさかな瓦版

No. 87
2019.1

シリーズ：エビ・カニ 第11回

ケガニ



ふーちゃんのトピックス

すいさんけんきゅう きょういくきこう だいしゅうごう
水産研究・教育機構のキャラクターが大集合！



ケガニ



～北の海のごちそうは、昔は代用品だった？～

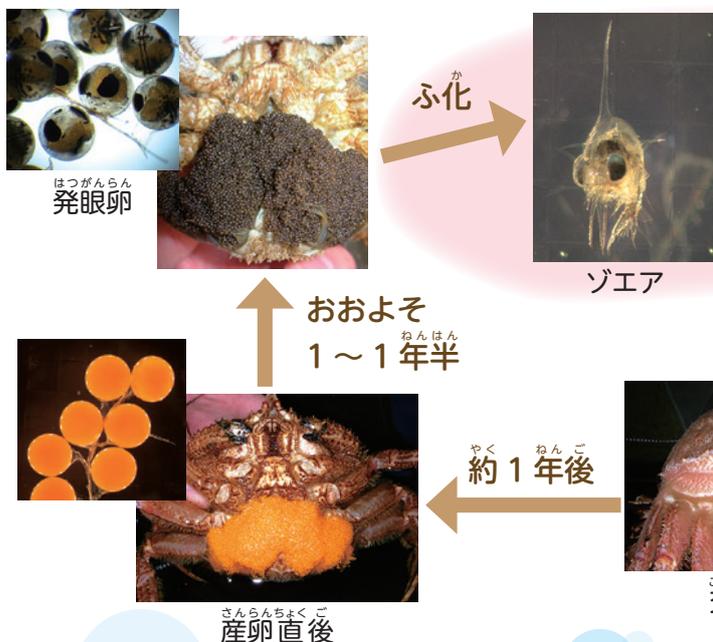
ケガニは、甲長が10センチ以上に成長するカニで、アラスカ、ベーリング海、南サハリンから、日本海側は北海道を経て朝鮮半島の東側まで、太平洋側は茨城県まで分布しています。

日本のケガニの水揚げのほとんどは北海道です。北海道では、タラバガニ（おさかな瓦版 No.79）やズワイガニ（同 No.83）よりも漁獲量が多く 2016 年には 2,517 トンでした。漁獲量を見ると、北海道を代表するカニはケガニかもしれません。

今では高級品として、「煮がに」で上品な甘みの身や濃厚な味わいの「かにみそ」（ワンポイント）を楽しみますが、昔は缶詰の原料として、それもタラバガニの代わりに用いられていました。

ケガニはほかのカニと同じように、脱皮・変

態して成長します。北海道周辺では幼生のふ化時期は3～5月です。ふ化した幼生はゾエアと呼ばれ、ゾエアは5回脱皮してメガロパに、もう1回脱皮して稚ガニになります(📐)。6℃で飼育したとき、ふ化してからメガロ



📐 ケガニ



あんじい
ワンポイント
アドバイス

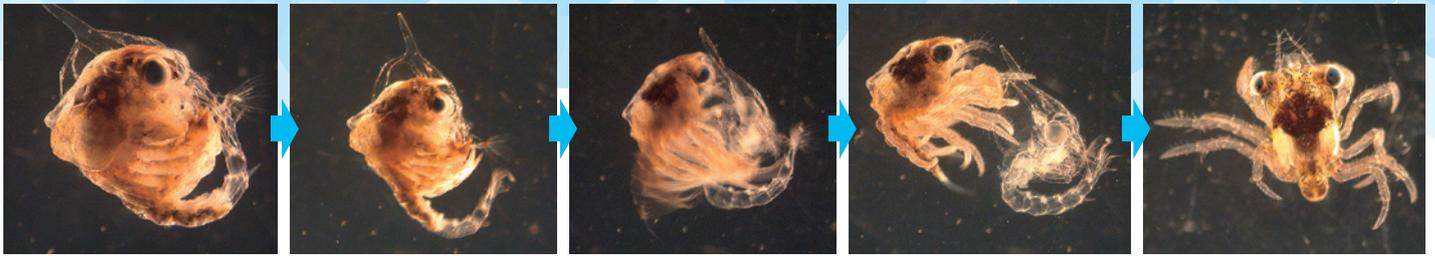
あんじい：ありとあらゆることを知っているナゾのさかな仙人です

かにみその正体

カニの身よりも「かにみそ」が好き、という人がおるじゃ。かにみそは、中腸線という器官で、人間の肝臓のように栄養を蓄えたり、すい臓のように消化液を出したりしておるのじゃ。ホタテだと「ウロ」とよばれておる。先端が閉じた細ながく、管の集まりで、色はカニの種類によって異なり、うすい黄色から明るいオレンジ色まで、さまざまじゃ。



ケガニのかにみそ



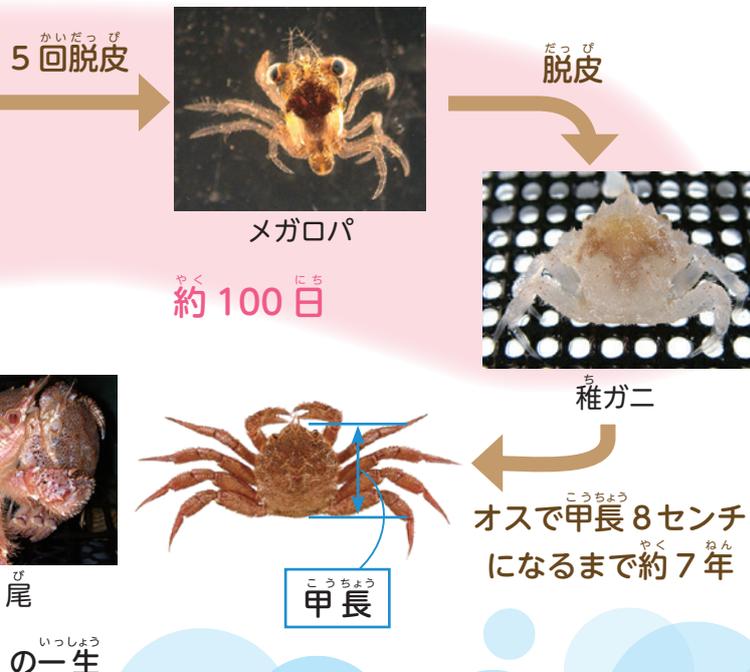
📷 ゾエア幼生がメガロパ幼生に脱皮するようす

パまで約 56 日、メガロパから稚ガニまで約 43 日と、生まれてから稚ガニになるまで約 100 日もかかります。脱皮の時期を迎えた幼生は、新しい体の外側にある古い殻を背中側から脱ぎ捨てるのですが、上手に殻を脱ぎ捨てることに感心します(📷)。

ケガニは成長が遅く、オスは獲ってよいサイズの甲長 8 センチになるまで約 7 年かかるといわれています。成熟したメスは、脱皮した直後に交尾し、約 1 年後に産卵します。その後、ふ化するまでおおよそ 1 ~ 1 年半の間、卵をおなかに抱えています。つまり、ケガニは産卵してから、次の産卵まで 2 ~ 3 年もかかるのです。一回にふ化する幼生は 1 ~ 数万尾くらいです。

ケガニの漁獲量は、乱獲により 1970 年代以降急減し、現在は最盛期の 10 分の 1 くらいです。そこで、北海道は漁でメスを獲ることを禁止するほか、獲ってよいオスの大きさを制限したり、獲る量を割り当てる「許容漁獲量制」を導入したりするなど、ケガニの数を維持しながら、増やしていけるよう、さまざまな取り組みをしています。

いちかわ たかし (市川 卓)

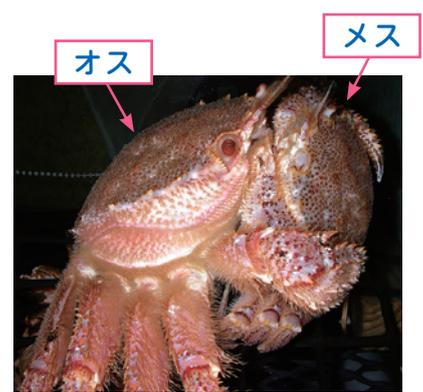


尾
の一生



頼れるオス 👍

脱皮直前のメスは、性フェロモン(おさかな瓦版 No.82)を出してオスを引き寄せます。オスは、メスが脱皮するまで抱きかかえ、ガードしながら脱皮の手助けもします。そして、脱皮したメスと交尾します。交尾が終わった後も、オスは、メスが性フェロモンを出している間は、メスを抱きかかえてガードし続けます。抱きかかえながら移動するため、オスは自分より小さいメスを選びます。



交尾のようす

オスはしっかりメスを守っているんだね!





ふーちゃんのトピックス

Fuchan's Topics

わたしたちを
おぼ
ぜひ覚えてね!



水産研究・教育機構の キャラクターが大集合!

水産研究・教育機構のキャラクター達を紹介するよ。どのキャラクターも魚をモチーフに描かれていて、とっても個性的。イベントや一般公開、パンフレットなどで活躍中なので、ぜひ覚えてね。

水産研究・教育機構のキャラクター

あんじい：ありとあらゆることを知っているナゾのさかな仙人です。
ふっくん、ふーちゃん：あんじい仙人のもとで修行している研究員です。
みんな、イベントや一般公開で活躍中だよ！ぜひ会いに来てね。



ふっくん

ふーちゃん



さけますみちゃん

千歳さけますの森のキャラクター (北海道区水産研究所 千歳庁舎)

さけますみちゃん

年齢は千歳 (1,000歳)。性格は元気で明るいしっかり者の女の子。トレードマークはいくらのカチューシャです。おしゃべりが大好きで、お客さんがくるとつつい「さけ」について力説しすぎてしまいます。でも実はシャイな一面もあり、うれしいときや、恥ずかしいときは、ほっぺが赤くなります。

さかなと森の観察園のキャラクター

(中央水産研究所 日光庁舎)

ヤマメちゃん：いつもヒメちゃんの一步後ろにいる、ちょっと照れ屋なヤマメの女の子。ヒメちゃんとイワじいと一緒だと笑顔になります。

イワじい：川のことは何でも知っているお爺さんイワナ。きれい好きで、ヒメちゃんとヤマメちゃんを見守る存在です。こう見えても大食いで、片眼鏡が川に流されることを一番怖がっています。

ヒメちゃん：キラキラオーラをまとったヒメマスのおんなの冠は名前負けしたくない！という気持ちからつけています。大きい目がチャームポイント。



ヤマメちゃん

ヒメちゃん



ふーちゃん



ふっくん

あんじい仙人のもとで修行している研究員です

おさかな瓦版 No.87 (2019年1月発行)

編集・発行：国立研究開発法人 水産研究・教育機構

質問の送り先・お問い合わせ先：広報課

〒220-6115 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3
クイーンズタワーB 15階

TEL. 045-227-2600 FAX. 045-227-2702

ウェブサイト <http://www.fra.affrc.go.jp/>

さかなやエビ、カニなどの水産動物や海藻のことでわからないことがあったら、広報課までハガキを送ってね。<聞きたいことの内容>、<学年>、<住所>、<名前>を忘れずに書いてね。ふっくんが「なんでもコーナー」でお答えします。

表紙写真



ケガニ



水産庁の主催する魚の国のしあわせプロジェクトに参加しています

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。